

山口 靖 教授が新センター長に就任しました

久野 寛・前センター長を引き継ぎ、4月1日に三代目のセンター長を拝命いたしました。本センターは、今年で設立5年目を迎えますが、教育面では大学院生を対象とした臨床環境学研修(ORT)、研究・社会貢献面ではコンサルティングファームやIUCプログラムの推進、さらに交通・都市国際研究部門で行ってきた環境問題解決のための先端技術開発など、その活動は質・量とも益々充実してきています。同じ4月1日には名古屋大学の学内コンソーシアムとしてフューチャー・アース研究センターが創設されました。フューチャー・アースは、持続可能な地球社会の実現を目指す国際的な研究プラットフォームです。本センターは、フューチャー・アースの理念を具現化するための活動の一翼を担っていると自負しています。

私の専門は、リモートセンシングによる地球観測で、特に植生や都市域などの地表被覆の時間変化モニタリング、地下資源探査のためのデータ解析アルゴリズム開発などを行ってきました。これまでセンターの活動に深くは関わってきませんでしたが、今後はORTやコンサルティングファームなどにも出来るだけ関わって行きたいと考えています。研究科内外の皆様方からも、本センターをご支援いただければ幸いです。



山口 靖 教授

(2018年4月 山口 靖)

教育活動

平成29年度統合環境学特別コース修了証授与式を実施

3月26日(月)、共発展センターが実施する「統合環境学特別コース」の平成29年度修了証授与式が執り行われました。今年度は環境学研究科の留学生4名、日本人2名の計6名の大学院生(地球環境科学専攻2名、都市環境学専攻1名、社会環境学専攻3名)が、統合環境学特別コースを修了し、岡本耕平環境学研究科長より修了証が授与されました。おめでとうございます。

修了生のみならずは口々に、このコースに参加しなければ異なる専門分野の学生と議論し調査・研究することはなかったこと、特に留学生は都会を出て農山村を訪れたことは日本を違う視点から見る機会になったなど、ORTでの貴重な経験が役立っていると話しました。



修了証を受け取るMaúreさん



修了生と教員での集合写真

「統合環境学特別コース」の詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/>



平成30年度臨床環境学研修(ORT:ON-SITE RESEARCH TRAINING)説明会

平成30年度統合環境学特別コースの臨床環境学研修(ORT)説明会を4月26日(木)に開催しました。臨床環境学研修は、「具体的な地域の具体的な環境問題」を対象として、現場での診断・治療・影響評価の繋がりを観察して相互のフィードバックのあり方を提案する、実践的な研究活動で、今年度は昨年度に引き続き岐阜県の白川町と東白川村をフィールドとして実施します。また、このコースでは、ORTと並行して基礎環境学講義も開講し、ORTを支える共通の基盤となる原理を、領域を越えて体系化していきます。

説明会には、環境学研究科の博士後期課程の学生4名(うち留学生3名)が参加しました。学生たちの専攻は、都市環境学専攻、地球環境学専攻など様々です。早速、白川町と東白川村の地図や資料を広げ、加藤博和教授や平野恭弘准教授によるレクチャーを受けました。今年度の統合環境学特別コースはこのメンバーで実施していきます。



ORTを受講する博士後期課程の学生と担当教員

興味を持たれた方は、下記のウェブサイトもご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/overview.html>



イベント

【報告】「フューチャー・アース研究センター キックオフ・ワークショップ」

フューチャー・アース研究センターのキックオフイベントとして3月12日(月)にワークショップを開催しました。総合地球環境学研究所所長、フューチャー・アース科学委員会委員の安成哲三氏をお招きし、フューチャー・アースのめざすものについてご講演いただき、学内の教員が「名古屋大学におけるフューチャー・アース研究の最前線」をテーマに話題提供しました。ワークショップには学内・学外合わせて54名の方々にご参加いただき、大変盛況なイベントとなりました。

今後ともフューチャー・アース研究センターの活動にご注目ください。



話題提供の様子(高野教授)

フューチャー・アース研究センターの新しいサイトが立ち上がりました。

<http://futureearth.env.nagoya-u.ac.jp/>



【報告】「コンサルティングファームセミナー説明・相談会」

3月20日(火)に「臨床環境学コンサルティングファーム説明・相談会」を開催しました。説明会には、約60名の自治体や企業の方などにご参加いただき、コンサルティングファームのこれまでの実績や案件の進め方について報告をしました。相談会においても、10を超える自治体の方と具体的な相談から申請手続きの方法など、様々な疑問を頂き大変活気のある会となりました。

平成29年度の説明・相談会は3月末の開催となりましたが、今後はより多く知っていただくべく機会を探しながら引き続き実施していきたいと考えております。



会場は満員御礼

興味を持たれた方は、下記のウェブサイトもご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/consulting-firm/>



ニュース

欧州の5都市と日本の5都市が持続可能な都市政策をテーマに交流

「EU・日本国際都市間協力(IUC: International Urban Cooperation)プログラム」では、持続可能な都市政策をテーマに5ペア10都市(図1)の交流を進めています。4月23日(月)には、駐日欧州連合代表部(東京都港区)に欧州の5都市の訪問団と日本の5都市が集まり、第2回 EU・日本都市間交流会合を開催しました。イオアニナ市(ギリシャ)のトーマス・ベガス市長は、これまでの国レベルの交流から、都市が活発に国際交流を行い持続可能な社会に向けて意識を高め合うことが重要だと述べました。郡山市の品川萬里市長は、日本語の「きょうそう」には「競争」と「協奏」という意味がある、都市同士でコンチェルトを奏でたい、と話しました。その後、プログラムの概要についての説明と各市のプレゼンテーションが行われました。



図1 EU・日本都市間協力プログラム参加都市のペアとテーマ



写真1 第2回EU・日本都市間交流会合の参加者(駐日欧州連合代表部にて)

交流会合の前日の日程では、日本の参加自治体がEUのパートナー都市を迎え、スタディーツアーを行いました。アンコーナ市(イタリア)は生駒市を訪問し、エネルギー・レジリエンス・バリアフリーに配慮した公共施設や子育て支援施策の現場を視察しました(写真2)。イオアニナ市(ギリシャ)は一宮市を訪問し、木曽川沿いのサイクリングロードと自転車交通への転換について、同様に湖沿いのサイクリングロードを持つイオアニナ市と意見交換しました(写真3)。フランクフルト市(ドイツ)は横浜市を訪問、日本最大級の地域熱供給株式会社であるみなとみらい二十一熱供給株式会社のプラントを見学しました(写真4)。エッセン市(ドイツ)は郡山市を訪問し、クリーンテクノロジーと再生可能エネルギーの関連施設および医療分野の取組みを視察しました(写真5)。ドノステア・サン・セバスチャン市(スペイン)は弘前市を訪問し、建築物のエネルギー管理システムや歴史的建造物のエネルギー転換事例を視察しました。弘前公園の満開の桜が訪問団を迎えました(写真6)。

各都市は、今後、18カ月の交流を経て、それぞれのテーマの具体的なアクションプランを作成していきます。



写真2: 生駒市



写真3: 一宮市



写真4: 横浜市



写真5: 郡山市



写真6: 弘前市

詳細な情報は、IUCプログラムのWebサイトをご覧ください。

<http://iuc.eu/japan/>



編集 後記

共発展センター発足から5年目となる今年第一弾目のニュースレターは、前・久野覚センター長に引き継いでセンター長となられた山口靖教授の挨拶を載せております。5年目という節目を迎え、これまでの4年間で培ってきた社会連携プロジェクトや教育プログラムを振り返り、さらに躍進すべく取り組んでまいります。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

名古屋大学



大学院環境学研究科附属
持続的共発展教育研究センター

共発展センター・ニュースレター 編集部

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境総合館421号室

電話/FAX: 052-747-6547 E-mail: cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp